

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607448		
法人名	有限会社たんぽぽ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	秋田県仙北市角館藺田別当村211		
自己評価作成日	令和2年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設という枠にとらわれず、在宅時と同じような暮らし方や時間の過ごし方ができるように努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

研修への参加や資格取得を推奨しており、特に自主的にスキルアップに取り組んだ職員への援助体制は他の類をみない程手厚い。わらび、ふき、しどけ、たらん芽、あいこ等の山菜が豊富で天ぷらは美味である。特にひろっこ(アサツキ)の白和えが自慢とのこと。古い民家を改修したホームは、各居室が個性あふれる作りになっていた。毎月、工作や気功体操、唄等々のボランティアの協力を得て、ホームを会場とした「たんぽぽの会」を開催している。3年が経過しており、真に地区のオレンジカフェの前進と云える。窓からの四季の移ろいが楽しめ、様々な野鳥がホームの木々にやってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と介護保険の基本理念を基にサービス提供を実践している。	設立当初に作成された理念を吟味し、スタッフが話し合い見直した理念が現在の理念とのこと。「信頼」「安心」「笑顔」がキーワードの3項目に集約された理念は、簡潔で分かりやすくスタッフに浸透している。再度理念の見直しを試みたが、結局現在の理念が継続されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が通勤時に行き会う地域の方と挨拶を交わしている。	毎月、工作や気功体操、唄等々のボランティアの協力を得て、ホームを会場とした「たんぼぼの会」を開催している。3年が経過しており、真に地区のオレンジカフェの前進と云える。現在は、他の地区の「認知症カフェ」に管理者が出張し協力するまでに広がりを見せている。近隣住民が利用者の顔を覚えることで、今では、近隣住民が手をつないでホームまで送り届けてくれるまでに理解が進んだ。自動販売機のない地域であることから、ホーム前に飲料の自動販売機を設置、利用者はもとより近隣住民も利用することで、住民との交流に貢献している。近隣住民が干し柿用にと、あえて枝を残した柿を差し入れてくれ、利用者が皮むきや紐を付け、舌鼓を打つこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	昨年度までは「認知症カフェ」を開催していたが今年度は感染症予防のため開催できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを報告し、行政から意見をいただいている。いただいた意見は勉強会などで職員へ報告し、サービス向上に活かしている。	利用者代表、地域住民、地域包括支援センターの参加する運営推進会議を、2ヶ月に一度開催するよう取り組んでいる。新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、止む無く中止した経緯がある。	コロナ禍の中、リモート、電話、郵送等の活用により、集合せずに開催出来る方法を模索するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	二か月に一度の運営推進会議(今年度は感染症予防のため中止もあった)で行政と話しあうほか、生活保護担当者や地域包括支援センターの担当者、社会福祉協議会の自立支援担当者と連絡を取る機会が多い。	生活保護受給者が入居者の半数以上であり、市生活支援課及び社会福祉協議会の日常生活自立支援事業担当者との連絡調整が密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を設けており、マニュアルの確認も行っている。身体拘束をせざるを得ない状況は今までにはない。夜間は防犯の観点から玄関の施錠を行うが日中は行っていない。	身体拘束防止に向けた指針及びマニュアルが整備され、身体拘束適正化のための対策を検討する委員会も3か月に一回以上開催されている。身体拘束適正化委員会の報告書の作成方法に戸惑いが見られる。	身体拘束適正化委員会報告書の記入方法について今後研鑽するよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の勉強会を設けている。虐待と言われる5つについてや、虐待前のグレーゾーンなど学び、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ない。活用して支援する機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関連することは管理者が行っている。十分な説明を行う他、不安や疑問点が残らぬよう確認しながら話をすすめ、納得の上での同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス検討会への利用者の参加により要望・意見を伺っている。家族からは主に面会時に要望を伺っているが今年度は必要時のみ電話で伺っている。	「たんぼぼ通信」を毎月発行しており、空欄に担当者が手書きで個別に詳細に報告事項を記入している。車椅子利用者が半数以上を占め、家族の自家用車による送迎が困難であり、ホームの福祉車輛で、冠婚葬祭等へ送迎サービスを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や要望・提案は聞いてもらえる機会があり、反映されている。	研修への参加や資格取得を推奨しており、特にSDS(Self Development System)への援助体制は他の類をみない程手厚い。スタッフからの要望により介護用ベッドを必要台数整備している。今後代表者による個別ヒアリングを導入予定とのこと。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員個々の努力や実績等を把握しているのかわからない。職場環境で変更されたことがあっても周知されない他、決定したこともたびたび変わるので戸惑う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者が個々の力量を把握しているかは不明だが、研修を受講したり、働きながら資格を取得することはできる職場である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が各々研修で知り合った同業者とのちに交流することもあるが、交流の取り組みとしては行われていない。(今年度は研修受講がオンラインが多い)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに耳を傾けたサービス計画を作成し実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画作成時に家族の意見を盛り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、野菜の皮むき、食事の配膳など、職員からお願いする時もあるが、自発的に手伝ってくださったり、暮らしを共にする者同士の関係が築けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族には近況を知らせる手紙を送付している。必要に応じて電話連絡も行っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の様子を見に出かけたり、在宅時に利用していた理美容店を継続して利用できる支援をしている。	他のグループホームへ入居している友人に逢いたいとの本人の希望をかなえようと、相手ホームとの連絡調整をした結果、家族と共に再会を果たし、とても喜んでもらった。かつて利用していた美容院は本人にとってのお気に入り入りの場所であり変更したくないとの方針のもと、本人や家族から馴染みの美容院を確認し、送迎している。付き添いの必要がない場合は、美容院からの電話連絡を受け、迎えに行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合わない利用者もあり、その関係を把握したうえで職員が対応している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も相談があれば支援する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から聞いた希望や意向などの情報を基にサービス計画が作成されている。日々のコミュニケーションから新たに知り得た希望・意向なども反映されている。	各種衣装まで自前という踊り好きの利用者のために、毎月一回は踊りを披露する場を設けている。自宅の管理が気になる利用者の要望で、夏は草刈りや冬の雪よせを知り合いの業者に連絡し、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞いた馴染みの暮らしや生活環境、習慣などをしっかり聞き取るようにしている。サービス開始前にその情報は職員に提供されている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日にどのように過ごしているかは細かく記録され、申し送りで職員に伝えられている。月二回の会議内でも情報の共有が行われている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所することがほとんどなく、皆が揃って話しあう機会が無い。職員の情報や本人の気持ちにより見直されたサービス内容は介護支援専門員が家族に電話をしている。近況報告は毎月担当職員が手紙を送付している。	毎月3名の利用者の検討会をケアマネジャーを中心に実施しており、全スタッフに周知し、意見やアイデア、気づきを集約している。検討会には全スタッフが参加出来るよう配慮している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画に基づいたサービス提供の実施内容を毎日個別に記録している。その情報を基にサービス計画内容の見直しをしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協働する機会がない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医へ受診同行を行っている。薬局は事業所開設以来の繋がりのある薬局を利用しており、薬に関して不明な点があれば薬剤師に気軽に質問することができる関係が築かれている。	入居前のかかりつけ医を継続して利用することを基本としている。病状が落ち着いていたり、医療機関があまりに遠方である場合は、居宅介護支援事業所の担当に相談し、かかりつけ医を変更する場合もありうる。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を雇用していないため職員が医師に情報を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病棟へ介護サマリーを速やかに提供している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に管理者と家族が話す機会がある。サービス利用中に体調が変化した場合にも家族へ、事業所ができることとできないことを伝えている。	重度化や終末期に向けた方針と支援について、どのように進めて行くべきか検討している。重要事項説明書の「入居と退居について」の項目の説明の際に、重度化や終末期にホームとして出来る範囲について具体的に説明している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二年に一度、地域の消防署に依頼し、救急救命講習を受講している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、火災時の避難訓練を行っている。その際は日中と夜間の火災を想定した訓練を行っている。事業所近隣住民へも参加依頼をしているがなかなか実践できていない。	消防署直通の火災報知器が新設されている。5月と10月の年2回、総合防災訓練を実施しているが、事前訓練も行っており、消防署から「よく訓練されており、流れが良い。」との講評。玄関からの避難だけでなく、むしろ狭い勝手口からの避難も想定し訓練する姿勢が確認できた。消防署より、「まずはホーム建物から外へ出ることが肝心」とアドバイスされている。それを受け、車椅子利用者が多いことも踏まえ、距離はあるものの実際に一時避難先まで、誘導することにより、多くの気づきが有るはずなので、5月には一時避難所までの誘導訓練を取り入れたいとの前向きな意向が確認できた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を不快にさせない言葉かけや対応を行うようにしている。	利用者とスタッフがたとえ同年齢であっても、さん付けは基本であるとの方針。特にトイレ誘導や排泄状況の確認については、他の利用者に聞こえないようにする配慮の重要性を強く認識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	頼み事(作業の依頼など)は「お願いできますか?」という声掛けで命令にならないよう気をつけている。その日の食事も選択できるようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や、入浴・清拭などを女性職員に対応して欲しい、などの本人の希望に沿うようにしている。ホールで過ごすか居室に戻って休むかなど、どのように過ごしたいか本人の気持ちを確認している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何年も暮らす中で不足してきた衣類や着心地の良い肌着などの補充を家族に依頼することもあるが、ほとんどは職員が立替金で購入している。その際本人も行ける場合は一緒に店に行くが今年度は外出を控えている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえ、食事の片付けなどを職員と利用者で行っている。	「ここはご飯を機械が作っているんじゃないんですね。」という入居間もない利用者の声が目撃的であったとのこと。「手作りが自慢」とあって、前もっての献立はあるものの、食材の買い出しで季節のおいしそうな食材があると即メニューを変更する。特にわらび、ふき、しどけ、たらの芽、あいこ等の山菜が豊富で天ぷらは美味である。ひろっこ(アサツキ)の白和えが自慢とのこと。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼の状態に合わせた形態で提供している。栄養が偏らないような献立を考えている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。二か月に一度、歯科医の往診があり、一人一人の口腔状態を診ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを活かしてトイレ誘導をし、尿・便失禁を防いでいる。	チェック表を活用し、排泄の自立にむけた支援を行っている。食後等々、時間を決めて誘導の声掛けを実施している。チェック表の記入の際に他スタッフから情報を聞くが、他利用者に聞こえないように配慮している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、毎日体操を行っているが、下剤に頼らざるを得ない人を入る。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間はこちらの都合で決めてしまっているが、入浴の順番や担当職員を女性にしてほしいなどの希望に対応している。	浴室と脱衣室がリフォームされ、非常に寒い日でも脱衣室は温かく、浴室もポカポカしている。柚子の果実を浮かべた柚子湯が楽しめる。前もってスタッフと共に、着替えをバスタオルに包んで準備し、脱衣室に持って行くことが習慣化している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので気兼ねなく休息できる環境であると思う。立ち上がりや歩行が不安な人へは人感センサーを設置しており、すぐに職員が訪室するようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効能や副作用についてはかかりつけの薬局が書面で説明してくれている。疑問点はいつでも薬剤師に連絡し確認が取れる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	独居生活が長かった人は生活全般においてできることが多く、生活歴を活かし調理の下ごしらえや食器拭き、選択物たたみ、食事の配膳などを行っていただいている。年に2~3回の外食の機会を設け、気分転換も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は感染症予防対策のため外出を控えている。	毎月利用者2名とスタッフ2名がドライブがてらファミリーレストランでの外食に出かけている。田沢湖ハーブガーデンや春の花見へはチャーターした送迎バスにホームの福祉車両を加え、全利用者が参加する。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が軽く、お金の所持を希望されている人は所持し、欲しい物の購入にあてている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい利用者には電話を貸している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間と台所が同じ場所にあり、調理時の香りや音が在宅時のような安心感があると思う。(いつも誰かがいる)建物内は複雑な構造になっておらず、混乱はほとんどみられない。	リフォームによってホール兼食堂が広くなり、大きな窓からの四季の移ろいが楽しめる。調査当日の朝、ホーム側の道路をキジの家族が行ったり来たりしており、自然の豊富さに驚かされる。キッチンが対面式になり、利用者と話しながら調理できるとのこと。窓から桜が見え、様々な野鳥がホームの木々にやってくる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室を提供しているので、一人になることも可能であり、共有の空間も有り、思い思いに過ごすことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人に馴染みの物を持ち込んでいただいてもかまわないことを話している。	古い民家を改修したホームは、各居室が個性あふれる作りになっていた。フローリングあり、畳あり、障子あり、カーテンあり、本の多い部屋やテレビが設置された部屋、好みの物を様々持ち込んでおり、まさに自室のような空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースが食堂でもある。配膳や下膳などに妨げとなる段差や扉はなく、利用者に手伝いをお願いしている。		